

## 2015国際教養科 NEWS 10月

### フランス語スケッチコンクール奨励賞受賞(10/10)

東日本高校フランス語スケッチコンクール 2015 が、アンスティチュ・フランセ東京で行われ、本校国際教養科 1 年のフランス語履修の眞田ハンナさん、加藤泰輝くんがペアで出場しました。全部で 16 組の高校生が熱く演じた中で、学習歴 1 年未満の参加者対象の奨励賞を受賞しました。

5 つの課題の中から“Comment lui dire?”という対話形式の課題文を選び、暗唱して臨みました。この課題文の場面設定は、初対面同士なのに互いに知人のふりをして相手の気を引こうとする男女の恋の駆け引きで、劇中には“心の声”を表現する場面もあり、フランス語を始めて半年の 1 年生にとっては簡単なものではありませんでした。しかし、本校フランス語講師の竹内伸子先生の熱心なご指導の下、2 人のフランス語は日に日に上達し、本番が一番よくでき、何よりも楽しむことができたようです。2 人の今後の活躍に目が離せません。



### フランスから高校生が留学 (10/17~11/7)

日仏高等学校ネットワーク (COLIBRI) 短期交換留学により、フランスのパリ郊外にある高校から 2 名の女子高校生が本校に 3 週間留学生として通学しました。2 人ともフランスの高校で日本語を学習しています。国際教養科 2 年のクラスに所属し、クラスの生徒の家でホームステイしました。一方、交換留学なので、来年 3 月中旬から 3 週間は逆に、今ホームステイを受け入れている生徒がフランス留学の際に、彼女の家庭にお世話になります。

〈留学生の長野西高の印象 — 原文ママ〉

日本に来てもう一週間たちました。日本の高校に通うのは初めてでフランスの高校とは全然ちがいます。でも先生たちもクラスメイトたちもやさしくて毎日長野西に行くのを楽しみにしています。本当に日本に来て良いことばかりです。

日本の高校は、私の高校ととてもちがう。でもふたつはたのしいです！仏にせいふくはありません。フランスはカフェテリアで食べます。おべんとうではありません。高校は 8 時半から 17 時半まであります。ときどき、18 時半まで。つかれた！だからクラブがありません。クラブはとてもかっこいいです。おべんとうも！私は日本の食べ物が好きです！私はいつまでも日本にいたい!!!

## 清泉女学院大学 出前講座 (10/21)

清泉女学院大学人間学部教授 室井美稚子先生に本校にお越しいただき、国際教養科 3 年生を対象に国際講座「平和学入門」の授業を行っていただきました。「平和」についていろいろ深く考えさせられたようです。以下が生徒達の感想文です。

ただ単に戦争がないから平和であるのではなく、自由にやりたいことができなかつたりする環境を作るとも目に見えない暴力で、それがあつということとは平和ではないという考え方を聞き、深く考えさせられました。また、先入観だけで物事を判断し決めつけるのではなく、お互いに素直に自分たちの意見を言い合い、話し合つて理解することで良い方向性で解決していけるというのがよくわかりました。

この講演を聴き、とても元気になれました。最近を受験勉強でストレスが溜まっていたのですが、平和学習を通して、自分が勉強できていることのありがたさを感じました。

桃太郎の絵本とは違う内容のムービーを見て、「こういう見方があるんだ。」と、今までは「鬼側の事情」というものを気にしていませんでした。このムービーがシンプルなようで、今の世の中の出来事の真理を突いていました。

自殺する若者が絶えない世の中、内戦がいつまでも続く世の中。決して平和ではないと思います。文化的、構造的な暴力に目をそむけてはいけません。改めて、自分が国際教養科にいる意味を考えさせられました。

学校に行けてない子供たちは、「夢」を奪われるという暴力をうけているという話が印象に残っています。私の周りは今大学受験に向かって勉強している人がほとんどで夢に向かってがんばっています。その夢を奪っているということを夢を追っている私たちだからこそ考えなくては行けないと思いました。

平和学を広め、発展させれば、この世から戦争はなくなり、差別なく、どちらか一方が得をするのではなく、双方が平等になる本当の平和へと導いてくれると思います。

勉強したくても出来ない子たちがいるわけだから、自分は勉強が自由にできるこの環境をちゃんと自分のものにしないでほしいと思いました。勉強したいのに出来ないという世界は、今後、本当にかえていかなくては行けないと思います。

世界中には私たちのように何の不自由なく生活することができる人はそうでない人より少なく、「発展途上国なんだからしょうがない」と思っていました。国のことを除けば私たちは同じ人であり、生まれた場所が違うだけで大きな差が生じてしまうのは悲しい事だと思います。「この国に生まれてラッキー」と思ってしまうのは私たちにとってはありがちな話だけれども、それと同時に世界を平等にしなければならない権利があると思います。生まれてくる子供達が見えない暴力を受けることがなくなるように、私たちは偏見におぼれることなく行動すべきだと思います。

グループワークを行つてオレンジを平等に分ける方法を考えてみて、自分が思いつかなかつた意見を共有することができたし、だれかだけ有利な解決策だけでなく平等になる解決策がたくさんあることがわかりました。

## 国際教養科2年 模擬国連 (8/26~10/21)

国際教養科2年生は、computer/LL演習という授業の中で、模擬国連を行います。今年のテーマは「移民・難民」。毎日のように難民問題のニュースを見聞きしていますが、他国の立場からこの問題を捉えることは容易ではなかったでしょう。ひとりひとりの「安全」「安心」なくらしを守り、人間同士の「尊厳」を認め合いながら生きていくために、難民・移民問題に対して国際社会は何をすべきなのか、考えるきっかけになったのではないのでしょうか。

### 1 模擬国連とは交渉の場

国連会議のシミュレーションを通じて世界の議題について学びます。加盟国の大使として問題を討議し、決議案を作成し、賛成者・反対者と交渉し、国連の手続き規則を駆使して、世界が直面する課題の解決に向けて議論をします。要求の異なる国が集まり、譲歩や妥協をしながら、いかに世界共通の総意をまとめ上げ、それを決議という文書で残せるか、交渉力が求められます。

### 2 模擬国連の流れ

- ① Introduction of the Agenda (議題説明) & Country allotment (担当国決め)
- ② Position paper (担当国のリサーチ、現状・問題点・解決策、国連で発言したいことを書く)
- ③ Discussion and Negotiation (Position paper をもとに、他国と交渉)
- ④ Draft Resolution (決議案作成、USB データで代表者が提出)
- ⑤ Resolution (決議)
- ⑥ Model United Nations / Voting (模擬国連総会本番／投票) Chairperson: ALT

- ・ Opening the session
- ・ Roll-Call (出席確認)
- ・ Adoption of the Agenda Item (議題の採択)
- ・ Opening of the Speaker's List (発言者発表)
- ・ Formal Speech (発言)
- ・ Voting (Yes/ No/ Abstention) (投票)

自分の調べた国だけでなく、グループ内で共有した情報や他のグループの話もきいて色々な国の問題や事実について知れたと思うから、すごく充実した時間だったと思う。

#### 〈生徒のアンケートより〉

難民を受け入れている国の中でも問題はあり、受け入れていない国は理由があったりして、受け入れをしない国が受け入れてくれれば楽だけどそうはいかなかった。解決策が思いついても、どこかの国には少し良くないことだったりして、なかなか一番良くて、みんな納得するような策は思いつかなかった。

実際にその国の立場になってみないと分からないことも多くあった。自分がその国の代表として何か決めないといけなくなっていった時に初めて“異文化”について深く考えさせられた。

国々の事情を考慮しながら問題に取り組んで解決策を考えることはとても難しく、頭をなやませました。でも他のチームを見るといろいろな意見や提案があって協力していけばなにか解決策が見つかるのではと思いました。難民や移民が現在こんなにもでまわっているというのはやはりまだまだ紛争がたえていない世界なんだなということを思いしらされました。本当にみんなが平和になれる世界があればいいのと思いました。そのために日本に住んでいる私たちができることはどんどんやるべきだと思います。



## 日韓高校生交流(派遣)事業 (10/11~16)

1-7 大串美結さんが、日韓高校生交流事業の長野県代表に選出され、韓国に派遣されました。現地で感じたことを語っていただきました。

〈参加生徒の感想〉

私は、今回の交流事業を通して韓国へのイメージが大きく変わりました。この事業へ参加する前は韓国についてあまりよく知らず、テレビやニュースなどで見る「反日」というイメージが強かったです。しかし、実際に韓国の人々と交流をしてみると日本のことが好きで、仲良くなりたいている人が多いと感じました。同じ高校生同士すぐに仲良くなり、とても楽しい時間を過ごすことができました。韓国の高校生と討論をし、日本と韓国は共通点が多いことが分かり、さらに韓国を身近に感じました。

また、「日韓共同未来プロジェクト」の作成により、歴史的問題を学び反日感情の原因を知りました。そして、これからの日本と韓国のあり方について意見を出し合いました。実際に現地に行って自分で体験してみないかと分からないことが多かったです。今回の事業を通して偏った人の意見だけに頼るのではなく自分で考えることの大切さが分かりました。

今後、日本と韓国がより友好的な関係を気付いていくため、もっと韓国のことを知り、理解していきたいです。

